

ぜひ
お読み
ください

しんぶん 赤旗

農業の未来

全国で対話ひろげる

●日曜版11月8日付



農協幹部 「共産党に注目」

いま農村に大きな変化が起きています。自民・公明前政権の農政はもういやだ。民主党の輸入自由化路線にも反対。日本共産党の政策に注目し始めた。各地の農協（JA）幹部に聞く、そんな声が続々返ってきます。



JAよつてい
組合長 八田米造さん



元クレン
組合長 三好黄吉さん



JA青森
組合長 相坂陸秀さん



JA稲子屋久
組合長 宮脇幸一さん

稲わらが干してある田んぼ。写真は「一本立ち」と呼ばれる稲一本での干し方。青森市内で

「FTA反対、農産物の価格保障」私たちと一致

稲の刈り取りが終わった田に干しワラが並ぶ青森市。青森農業協同組合の相坂陸秀組合長（85）が語ります。「自民党の天下で農政がくるくるかわる。食料自給率がこんなに落ちていくのに米の輸入自由化を始める。そのツケとウミが一気に出たのが今度の総選挙だった」

北海道・羊蹄（ようてい）山のおもとにあるJAよつていは、組合員が13年間に約1900戸から千戸に激減しました。八田米造組合長（57）は、「夫婦と老父母4人が汗水たらして働いても1人当たり100万円。子どもには継がせられない」と実態を訴えます。

サトウキビ畑が広がる鹿児島県西之表市のJA稲子屋久。宮脇幸一組合長（77）は民主党の政権公約（マニフェスト）にある「米国とのFTA自由貿易協定の交渉促進」と農家への戸別所得補償に疑問を投げかけます。

「（FTAで）輸入すれば際限なく（農産物の）価格が下がる。税金で所得補償といってもできるのか」との組合長も自民、民主の農業政策に批判や不安を向ける一方、日本共産党に対しては「よく農業を勉強している」（宮脇さん）と注目しています。

北海道のホクレン農業協同組合連合会の元副会長、三好黄吉さん（85）がそのわけを話します。

「農産物の価格保障と所得補償を組み合わせて安定した食料生産を維持し、関税などの国境措置を維持・強化しFTAに断固反対すること、私の考えと一致しています。『建設的野党』というのがいいですね」

10月8日にJA全中（全国農業協同組合中央会）が開いた第25回JA全国大会に初めて招待されてあいさつし、大きな拍手で迎えられた日本共産党の志位和夫委員長。衆院の代表質問（10月29日）で鳩山首相に厳しくせまりました。

「民主党の政権公約にある、日米FTAによる関税撤廃と戸別所得補償制度創設のセットでは、「穴のあいたバケツ」に水を注ぐようなものだ。これ以上の輸入自由化、関税撤廃はやめるべきだ」

農協現場幹部インタビュー⑩⑪

志位さん市田さん代表質問④⑤

購読
申込書

○印をおつけください

●日刊 月2900円 ●日曜版 月800円

お名前

住所 〒

しんぶん
赤旗

2009年11月号 号外
(1952年5月30日 第三種郵便物認可)

発行●日本共産党中央委員会

〒151-8586 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-26-7

TEL 03-3403-6111 FAX 03-5474-8358

お申し込みは、お近くの党事務所または党員か、右記まで。ホームページからも申し込みます。